

浄願寺だより

R3夏No.14

遠方にお住まのご門徒さんから定期的に近況を聞かせてほしい、この要望があり、このたび浄願寺だよりとしてお寺をとりまく身近な出来事を取りまとめてお知らせしようと思えます。夏冬二回発行を予定しています。

令和三年八月二日発行

編集責任者

浄願寺住職 関 秀法

悪人

「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや」
親鸞聖人の有名なお言葉です。このお言葉を、但東町にお住まいであった小学校教師、東井義雄先生の本に紹介されていた、小学生の作文の中に味わつてみたいと思います。

せんせい おころんとうて
せんせい おころんとうてね
わたし ものすごいわるいことした
わたしおみせやさんのチューインガムとつてん
一年生の子と二人でチューインガムとつてもて
すぐみつかつてもた
きつとかみさんがおばさんにしらせたんや
わたし ものもいわれへん
からだがおもちやみたいにい
カタカタふるえるねん
わたしが一年生の子に「とり」いうてん
一年生の子が「あんたもとり」いうたけど
わたしはみつかつたらいややから いややいうた
一年生の子がとつた でもわたしがわるい
その子の百ばいも千ばいもわるい
わるい わるい わるい わたしがわるい
おかあちゃんに みつからへんとおもつたのに

やつぱりすぐみつかつた
あんなにこわいおかあちゃんのかお
みたことない
しぬくらいたかかれて
「こんな子うちの子ちがう でていき」
おかあちゃんはなきながら
そないいうねん
わたしひとりで でていつてん
いつでもいこうえんにいつたら
よその国へいつたみたいな気がした
せんせい どこかへいつてしまおとおもた
でも なんぼあるいても
どこへもいくところあらへん
なんぼかんがえても あしづかりふるえて
なんにもかんがえられへん
おそうにうちにかえつて
さかなみたいにおかあちゃんにあやまつてん
けど おかあちゃんは
わたしかおみてないてばづかりいる
どうしてあんなわるいことしたんやろ
もう二日たつてるのに
おかあちゃんは
まださみしそうにないている
せんせい
どないしよう？

浄土真宗の教えは「悪人」が救われる教えだと言われています。しかし、私自身の心を見つめてみると、多くの場合、口では殊勝な事を言っている、内心は、「自分は悪くない」、「あの人に比べたら私はまだまし」と、いつも自己弁護にばかり終始している私があります。

この作文を書いた子は、実際にはガムを取ってはいません。しかし「ガムを取つた子より、その子をそそのかした私の方が、百倍も千倍も悪い」、母の怒りと涙に触れ、そうはつきりと気付かされています。仏教では、この気付きを得た人のことを「悪人」と言います。私の過ち、私の未熟さ、私の愚かさを、他人のせいにしてたり、ごまかしたりせず、まっすぐ見据える目を持った人を「悪人」と呼ぶのです。そう考えると、『阿弥陀仏は、自分の事を善人だと思つていてる人でさえ救うという仏であるのだから、自らを「悪人」と見つめる心を持つ人が救われたいはずがないであらう』という親鸞聖人の言葉にも何か感じられるものがあるのではないのでしょうか。とは言いながら、私たちはまだ、自分の事は「善人」だと思つています。そんな「善人」の私の思い上つた頭を垂れさせてくれるものに日々出会い、気付かされていくのが、この人生でありましょう。私たちの毎日は、この作文の母親の涙のような、きびしくもあたたかなお育てに満ち満ちています。

57年前の

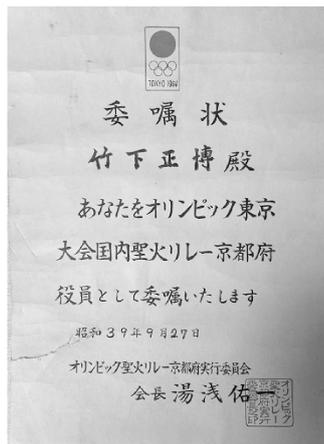
聖火リレー

先日、総代さんとオリンピックク・パラリンピックの話をしておりますと、「実は、私、五十七年前の東京オリンピックの時、福知山の聖火リレーの伴走をしたんですよ」と思いがけず興味深いお話を聞かせていただくことができました。

代表総代を勤めていただいている竹下正博さんは、若かりし頃、いろいろな陸上スポーツをしておられたご縁で、聖火リレーの役員に任命され、福知山の一区間を聖火とともに伴走なさったことがあるのだとか。

今年の聖火リレーはコロナの影響で、福知山での開催は出来ず、亀岡市のスタジアムで行われましたが、「五十七年前の東京オリンピックの時の盛り上がりは大変なものだった。」と長年思い出とともに大切にとっておられた、当時のシューズやゼッケンを前に、正博さんは懐かしそうにお話してくださいました。

私たちはみな、親や多くの先人から受け継いだ命の聖火をかけて走る走者です。自分の受け持った区間は精一杯に、そして誇らしく、胸を張って走り切りたいと思います。



正博さんが見せてくださった委任状や57年前のジョギングシューズ

門徒の広場

門徒の広場はWEB版ではご覧いただけません。

お寺の掲示板

「**幸い**でしよう」
 「**寂**しいでしょう」
 という他人の言葉に
 「**いや**自分は幸々です、
 と心から答える
 人がいる

編集後記

思うところありまして、近所の土地をお借りしてミツバチを飼いはじめました。慣れないうちには、顔や手を刺されて、パンパンに腫らして家族に笑われていました。最近はいよいよ慣れてきました。地元の蜂蜜の味はもちろんな格別ですが、それ以上にハチたちの無駄のない知的な生き方にただただ感心させられます。

ハチたちは、春夏の一番食料が豊富な時期を、必ずやってくる厳しい冬の準備のために使います。移ろいゆく自然の中に生きる者の知恵がそこにあります。

変わりゆく形、変わらない心。



ふるさとの杜 墓苑
永代供養墓

furusatonomoriboen.com

浄土真宗本願寺派
笹尾山 浄願寺
 〒620-0925
 福知山市上篠尾725
 電話(0773)-22-5280
 email jyouganjiweb@gmail.com
 http://www.jyouganji.com

住職 関 秀法